

# 第1回文京区アカデミー推進協議会分科会(国際交流分野) 議事要旨

日 時	平成27年6月4日(木) 18:30~20:30
会 場	文京シビックセンター5階 区民会議室5A
委 員	会 長 久松 佳彰 (東洋大学教授) 委 員 森岡 隆 (文京区国際交流フェスタ実行委員会 委員長) 委 員 三谷 規子 (文京区青少年委員会) 委 員 金坂 吉雅 (区民公募委員) 委 員 黒木 美芳 (区民公募委員)
欠 席	委 員 佃 吉一 (公益財団法人アジア学生文化協会 常任理事) 委 員 鈴木 秀昭 (東京商工会議所文京支部 事務局長)
事務局	矢島 孝幸 (アカデミー推進部観光・国際担当課長) 熱田 直道 (アカデミー推進部オリンピック・パラリンピック推進担当課長) 増田 一昌 (アカデミー推進部アカデミー推進課国際交流担当主査) 支援事業者 株式会社創建 大谷・氏原
資 料	参加者名簿 事業パンフレット等 平成27年度アカデミー推進計画進行管理表 平成26年度アカデミー推進計画取組状況結果

## 議 事

### 1. 開 会

### 2. 委員等紹介・進行の確認

委員による自己紹介を行った。

### 3. 議題

#### (1)アカデミー推進計画の国際交流分野における平成26年度の進捗状況の評価

事務局より、「平成26年度アカデミー推進計画取組状況結果」および「事業パンフレット等」を用いて、平成26年度の事業の進捗状況について説明を行った。

金坂委員	姉妹都市と友好都市の違いは何か。
事務局	法的に厳密な区別はない。姉妹都市はシスターシティーの訳語であり、パートナーシップは友好都市と言える。文京区では交流相手との合意内容によって分けている。
黒木委員	イスタンブール市ベイオウルとの交流は、どちらからアプローチしたのか。
事務局	昨年秋にトルコ大使館を通して打診があった。区内の文京学院大学がトルコ大使館とユヌス・エムレ・インスティテュートと提携していたり、東洋文庫の存在がある。ベイオウルと文京区の親和性が高いということから、大使館を通じてアプローチがあった。

黒木委員 今後も外国の都市からアプローチされれば提携するという考え方が。  
事務局 提携の内容や交流の意識に応じて検討する。

久松会長 国際交流フェスタのアンケート回収数が落ちている理由は何か。  
事務局 開催日程が例年よりも2カ月ほど早かったためか。アンケート回収数に基づいて数字を出しているが、動員数自体はとれていない。印象では、外国人は多かく、賑わっていたと認識している。

森岡委員 非常に楽しい雰囲気よかったですと思う。  
黒木委員 国際交流フェスタは開催回数を増やした方がよいのではないか。動員数はカウントした方がよい。  
事務局 過去に来場者をカウントしたことはあるが、エントランスが一か所ではないため合計することが難しかった。

三谷委員 国際交流フェスタがはじまった当初に手伝ったが、現在の会場が変わって以降、オープンになってよいと思う。できれば複数回やった方がよい。たとえば毎回国を変えて実施すれば、外国人も、出展者としてだけでなく、来場者として楽しめるのではないか。  
国際交流フェスタは、国際理解を深められるようにするなど、内容をすこし深められるとよい。地区ごとに青少年と外国人がいっしょに国際フェスタの準備をする等の工夫があるとよい。

黒木委員 国際交流フェスタの会場で、交流する仕掛けがあるとよい。  
森岡委員 多くの来場者があればよいのか。来場者が多すぎると体験ができなくなってしまう。そのことへの手当が課題だろう。開催回数は多くした方がよいが、会場が問題になる。小さくてもよいので国際交流のためのスペースがあると、交流のきっかけにもなってよい。いまは文京区役所の17階に窓口があるが、知らないと訪れない。気軽に訪れられる場所があるとよい。  
事務局 姉妹都市はどれくらい認知されているのか。

事務局 国際交流フェスタでのアンケートでは、カイザーズラウテルン市は25%の方が知っていた。徐々に認知度が上がってきている。バイオウルの認知は、提携したばかりであることから、8.5%だった。

森岡委員 カイザーズラウテルン市との提携は何年になるのか。  
事務局 昭和63年に提携したので、27年目になる。  
三谷委員 姉妹都市については小学校の授業で習うようだが、大人になると忘れてしまう。教育の森に姉妹都市提携のモニュメントがあるが、それも教育の森を使わなくなると忘れる。折につけて情報提供をした方がよい。

森岡委員 区民が気楽に交流できるような組織があった方がよいのではないか。姉妹都市との交流が深まるだろう。  
事務局 新しい計画策定に向けた意見だと思うが、平成26年度の事業についてはいかがか。

森岡委員 事業に参加していないものについては意見が出しにくい。区の方である程度、評価をした方がよいのではないか。  
黒木委員 自分は、一般的な区民と同じぐらいの情報量しか持っていないので、意見を問われても分からないと言わざるを得ない。事業一覧を見てどうかというこ

- とであれば、少し物足りないというか、もっと交流を進めることができるのではないかという感想だ。
- 事務局 国際交流を推進する組織は係長1名と非常勤職員が1名という体制でやっている。事実、去年度はベリオウルとの事業に手がかり、その時期に他の事業に手が回らなくなっていた。そのようなやりくりをしながら、規模を拡大していきたいと思っている。
- 黒木委員 人手が足りないのであれば増やす努力をするか、区で抱え込まずに区民と一っしょにやっていくことを考えることはできないか。
- 事務局 区民との協力体制は組んでいくべきだと思う。すでに、区がつなぎ役としてやっているものもある。国際交流事業は、区の広報課のほか、NPOや地域活動センターでも行っている。現行計画では担当としてやっているものを記載していたが、新しい計画では行政全体でやっているものを示そうと考えている。
- 久松会長 感想を述べたい。1点目は、平成25年度の評価でも「適切な人員の確保を図りたい」と書かれているので、今年度も同様の評価をしてもよいだろう。2点目は、ベリオウルとの交流事業が多かったという話があり、好評だったという話はよいことだが、ベリオウルに偏っているとカイザースラウテルン市のことが忘れられるので、毎年両方の都市を取り上げた事業を行った方がよいだろう。3点目は、新規事業である区民と外国人との情報交換が取り上げられたが、アカデミー推進課が直接関わらずに行ったことは大事だろう。区民は課室が異なっても文京区がやっていると見るだろう。
- 機会づくりとしての国際交流フェスタについては意見が出た。回数を増やしたり、国毎にテーマを絞るということは、よい考え方だろう。フェスタの回数を増やすということよりも、拠点を増やすという意見もあった。姉妹都市との活性化については、カイザースラウテルン市とベリオウルの両輪で進めていくべきだが、アカデミー推進課だけでなく、区全体でやっていくことで、名も実もとれるように考えるべきだろう。
- これは今後の話になると思うが、オリンピック・パラリンピックで多くの方が滞在・来訪されるので、標識等の対応が必要となる。そこで少しでも文京区を好きになってもらう手掛かりにすることは大事だろう。

## (2) 文京区の特徴や課題について

ワークショップ形式により、文京区における国際交流における特徴や課題について意見を出し合った。主な意見は以下のとおりである。

### ●特徴

#### 〈人材・組織〉

- ・大学が多く、留学生がたくさんいる
- ・アジア学生文化協会や東大国際宿舎などの留学生に対する支援する組織や場所がある
- ・日中友好会館やUN-WOMENが拠点を持っている

〈観光客・観光地〉

- ・谷根千などの観光地があり、上野・浅草にも近いので、観光客が集う
- ・交通の便がよく、病院も多く、生活する上で便利がよい
- ・外国語の案内板が設置されている

●課題

〈人材・組織〉

- ・国際交流の事業などが留学生が中心になりすぎる傾向がある上、文京区に住む期間が限られている
- ・国際交流を支援する区民や組織を育成・活用できていない

〈拠点〉

- ・自由に交流できる場所がない

〈ニーズ〉

- ・区民が国際交流への関心が薄く、外国人に対して臆するところがある
- ・言葉の壁を意識しすぎるせいで「交流」の敷居が高くなっている

●今後の方向性

- ・交流サロンを設置する
- ・言葉の壁を感じることなく、日本語で交流を考える（ICTの進歩への期待も持てる）
- ・区立小・中学校と連携し、子ども・親・家庭を巻き込んで事業を実施する
- ・2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を機として、区内小・中学校の生徒・児童が海外の選手と交流する機会を設ける

4. 閉 会

以上